

なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～

「どうして動物はお話ができないの？」

先生「A君、犬を飼っているよね？名前はなんていうの？」

A君「シェリっていうんだ！男の子なの！」

先生「そうなんだ。シェリ君の鳴き声、聞いたことある？」

A君「？…ワンワンっていうよ？（犬だもん、当たり前だよ。）」

先生「いつも同じ鳴き声なの？」

A君「あっ！ちがう！おながか空いてるときと、遊んでほしいとき、鳴き方が違う！」

先生「人間だって、怒っているときと楽しい時では、しゃべり方が違うよね。シェリ君も一緒なんじゃないかな？」

A君「そうかあ。ボク、動物はしゃべれないと思っていたけど、シェリはイヌの言葉でお話ししてたんだね！」

先生「きっとそうだね。ボクたちも声を出さないで気持ちを伝えるのって難しいよね。動物たちも、いろんな鳴き声や仕草で『気持ち』を伝えあっているのかもね。」

A君「ふーん。動物もおしゃべりしているんだね。でもね、先生、金魚はお話してないよ！」

先生「あら本当。先生も金魚の声は聞いたことないなあ。どうしてかなあ？」

A君「水の中でおしゃべりしたら、溺れちゃうからかなあ？そういえば、キリンの声も聞いたことないぞ。テレビではキリンも偶に鳴くって言ってたけど。」

主幹「おもしろいお話ししてるのね。あのね、こんな本があるのだけれど。」

絵本を見ながら、3人のお話しは続いています。A君たちの会話に興味を持った子たちが、「私たちにも見せて」と、集まってきました。

主幹の先生が紹介してくれたのは、『どうぶつのわかっていること・わかっていないこと』（文きのしたさとみ/絵よしもりひろすけ 小学館集英社プロダクション刊）という本です。世界には、まだまだわかっていないことがたくさんあります。案外、子どもたちの新鮮な発想のなかに、真実が隠れているのかもしれないね。

